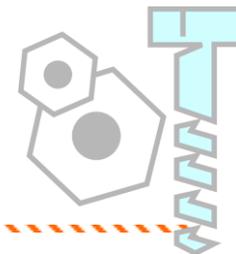




業種別部会長シンポジウム



機械金属部会

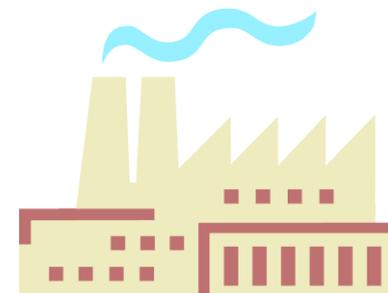
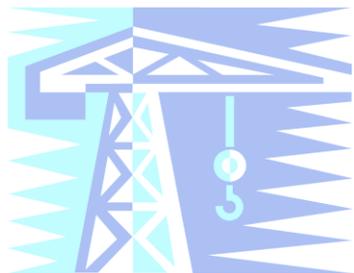
「2011年上期の回顧と下期の展望」

業種・分野別分類

1. 鉄鋼(鋼板)
2. 電力及び社会インフラ
3. プラント機器
4. 建設機械
5. 産業用圧縮機
6. 農業機械
7. 各種工具/計測機器
8. 潤滑油

2011年 8月23日

伯三菱重工業 西岡



1.鉄鋼(鋼板)

2011年上期の回顧

概況

国内粗鋼生産量:

1Q:前年同期比 +497千ton(+6.2%)

2Q:+790千ton(+9.9%)

上期 前年同期比+8.2%

在庫調整が一段落し需要は底固い

輸出:

1Q:2,822千ton(前年同期比+30%超)

CSAスラブ製鉄所が本格稼働し、
北米向鋼塊・半製品輸出が増加

輸入:

昨年のも月間400-500千tonレベルから
上期 月間200千ton程度に減少。

2011年下期の展望

概況

国内粗鋼生産:

2011年の予測 3,940万ton

で過去最高の2010年(3.293万ton)
を更新する見込み

輸出:

鋼塊・半製品輸出は引続き高水準
鋼板製品類はレアル高影響で減少

輸入:

上期程度の水準で推移する見込み

鋼材2次加工製品の輸入増加が深刻
になっており、4,500-5,100千tonの
輸入見込み

2.電力 及び 社会インフラ

2011年上期の回顧

概況

Petrobrasの大型投資が継続され、経済の牽引役・原動力、波及効果大。但し、上流部門(プレサル)に偏っておりFPSO向等は好調だが、プラント機器等への投資は不十分。

電力オークションは2011年は実施された(A-3)。但し、過去のオークションで落札した発電設備の遅れが深刻になっている。

大型プロジェクトは続々と入札が行われているが、高速鉄道は流札となり今後スキームを変更予定。

2011年下期の展望

概況

Petrobrasの大型投資は若干見直されたものの、引き続き国内経済の牽引役として期待大。

FPSO商談等が継続する見込み

A-3電力オークションは8/19発表予定

A-5電力オークションは来年初にづれ込む見込み

高速鉄道は上下分離での入札が年内に発照される見込み。

その他の地下鉄、モノレール等の都市交通、道路、空港拡張等の社会インフラ関係も発注される見込み。

3.プラント機器(紙パルプ・石油化学・エタノール等)

2011年上期の回顧

概況

紙パルプ業界

設備投資が回復し大型ソーダ回収ボイラ、バイオマスボイラ発注があった。

石油化学業界

好調な業績に支えられて設備投資に意欲的であるが、大型案件の繰り延べが多い。

鉄鋼・非鉄業界

VALEのALPA製鉄所等の設備投資が計画されている。

エタノール

業界内再編が進んでいる状況で具体的な設備投資には動いていない。

2011年下期の展望

概況

紙パルプ業界

業界としては復活しているものの、下期での大型新規商談は期待薄。

石油化学業界

PB案件としては、ペトコーク焚ボイラ、舶用機械等の新規引合いを期待。

鉄鋼・非鉄業界

新規製鉄所以外では大型設備投資は期待薄だが、一部にコスト低減のための投資も期待できる。

エタノール

業界再編進展中 現状まだ不明。

4.建設機械

2011年上期の回顧

概況

総需要台数

1Q: 2782台(前年同期比 21%増)

2Q: 3052台(同 2%増)

ジウマ政権のインフレ抑制のための金融引締めにより2Qで伸びは鈍化したものの堅調に推移。

2011年下期の展望

概況

総需要台数

2011年の総需要予測は11.7万台で、前年比8%の伸びとなる見込み。

金融引締めが継続されるものと予想し下期の伸びは5%程度で、年初の予測10%を下回り、年間でも10%未満との予想。

5.産業用圧縮機

2011年上期の回顧

概況

食品業界

上期 前年比 +10%

飲料業界(ビール、清涼飲料水)の設備投資が相変わらず堅調。

牛肉/豚肉産業の伸びは昨年より横這い
鶏肉産業は国内/輸出共に堅調。

ペトケミ業界

上期 前年比 +0%

PBのプレサル案件で漸く実際の需要が動き始めた。

陸上プラントは若干、案件が進捗中。

2011年下期の展望

概況

食品業界

下期 前年比 +0% 予想

飲料業界では各社共に年内の設備投資がほぼ一巡。

BRFの完全1社化により鶏肉業界再編を予想。

欧州メーカーが為替を武器に伯プラント市場に進出してくる可能性有り。

ペトケミ業界

下期 前年比 +0% 予想

PBプレサル案件での受注活動が本格化する見込み。(陸上プラント案件も)
それ以外のケミカル業界の動きは鈍い予想。

6. 農業機械(小型ディーゼルエンジン含む)

2011年上期の回顧

概況

エンジンビジネス

上期 前年同期比 -19%の落ち込み
米作用作業機向多気筒エンジンと
単気筒エンジン販売が大きく落ち込み

トラクタービジネス

上期 前年同期比 -17%の落ち込み
小規模農家支援策Mais Alimentos
(75馬力以下のトラクターに対する低
金利融資政策)により小型トラクター
販売は昨年まで活況を呈してきたが、
これも一巡した。

2011年下期の展望

概況

エンジンビジネス

下期 上期よりも若干の回復期待
発電機セットのレンタル会社等からの
発注も踊り場を迎え、安価な中国製
エンジンの流入もあって低迷を予測。

トラクタービジネス

7/1よりMais Alimentosに代わる
新たな融資制度が導入されたが、
小型トラクターが一巡したこともあり、
下期の販売は上期並みを予測。

7.各種工具/計測機器(切削工具他)

2011年上期の回顧

概況

切削工具

市場としては好調だったが、工場が震災被害を受けたメーカーでは供給不足でシェアを落とした。被害が無かったメーカーでは販売好調。

精密切削工具

国内需要・米国向輸出共に好調で、販売は前期比10%増加し生産体制を強化しつつある。

計測機器

販売は前年同期比で+23%
教育機関向と輸出が牽引した。

2011年下期の展望

概況

切削工具

市場としては伸びており、工場の震災被害も回復するので、前年同期比で15-20%の販売増加を期待。但し、タングステン等の原料供給不安有り。

精密切削工具

生産数量は過去最高となる見込み。
売上は前期比8%増を予想。

計測機器

日系企業及び中韓メーカー等が工場建設を予定しており市場環境は良好。

8.潤滑油・金属加工油

2011年上期の回顧

概況

潤滑油

市場全体としては前年同期比+5%
で堅調に需要が伸びている。
ベースオイルが不足して各社が輸入
する状況になっている。

金属加工油

上期 前年同期比 +5%
第1Qでは前年同期比で+6%の伸び
だったが、第2Qでは金利上昇の影響
もあり落ち込んだ。

2011年下期の展望

概況

潤滑油

エンジンオイル、工業用潤滑油等の
主力製品で引続き堅調な伸びが
期待できる。

金属加工油

下期 前年同期比 +5-6%と予想
上期に比べて大きな伸びは期待でき
ずに現状維持となる見込み。

機械金属部会 全体

2011年上期の回顧

2010年後半の過熱ともいえる経済情勢から、各製品共に順調に販売・生産が伸びてきて、上期第1Qはその勢いが維持され各製品共に伸びたものの、第2Qに入って伸びが鈍化してきた。従って、上期トータルとしては年初に予想していた程には伸びない結果となった。高金利政策等の消費抑制が効いたものと思われる。

2011年下期の展望

政府の高金利政策・消費抑制政策には変化が無いものと思われる。従って、下期は上期第2Q程度の販売・生産になるものと予想される。但し、社会インフラ関係・プラント機器等では、これまで計画段階にあったものがいよいよ具体化して入札・発注になるものもあり、これらでは大型受注の可能性はある。